地方小出版情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

おうみ学術出版会の設立と滋賀の大学出版事情

文・サンライズ出版代表　岩根順子

学術出版事業推進協定　調印式のようす

学術出版事業推進協定の締結

2015年の暮れも押し詰まった12月25日、滋賀県彦根市の滋賀大学本部で、「おうみ学術出版会」の調印式が行われた。滋賀大学と滋賀県立大学とサンライズ出版が「近江の地ならではの学術研究の成果を、わかりやすい表現の学術書として世に広め、大学と地域内外との対話を深め、近江の知の拠点形成に資する」ことを目的に、おうみ学術出版会を設立することを発表し、学術出版事業推進協定を結んだ。

近年、災害時などへの対応として、自治体と企業、自治体と大学などがお互いに協力し合って難局を解決するため連携協定を結ぶ例が増えており、そうした調印式の様子は頻繁に報道されている。とはいえ、小社にとって、大学と協力関係の調印を行うというのは初めてのことであり、いつもの記者発表とは少々勝手が違い、緊張した。

締結に至る経緯

今回の学術出版事業推進協定締結までの経過を振り返ってみる。まず、滋賀大学の2010年からの中期計画の中に、大学出版会の立ち上げが盛り込まれた。以後4年の歳月をかけて、滋賀大学では担当者が各地の大学出版会や大手出版社へ出向き、綿密な調査を行ってきた。同時に「学術懇話会」と称される、学内外の研究者たちの研究内容を担当者らが聴講する場が定期的に設けられた。懇話会には、小社からも毎回1～2名が参加し、講師の選定に加わることもあった。

時には旧城下町の町家を改装した店舗が会場になった懇話会の場は楽しいものであったが、具体的な進展がないまま2年、3年と過ぎるうち、本当に本の形になるのか、内心、焦りも生じていた。

じつはこの間、滋賀大学は他の出版社などへの調査を進めていた。この時点で、小社は単なる選択肢の一つでしかなかったのである。

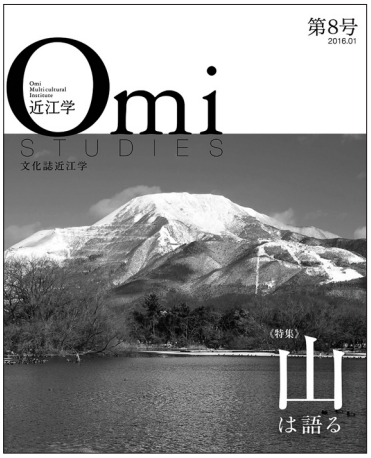
そのような経緯ではあったが、最終的に滋賀大学がたどり着いた結論は、地元大学や地元出版社（小社）との連携であった。すでに全国には50ほどの大学出版会が存在しており、後発としては少しでも独自性を出す必要がある。名称には滋賀県の旧国名「おうみ（近江）」を冠し、県内の他大学や地元出版社とともに学術出版事業推進協定を締結するべきだという結論に至ったのである。

滋賀の大学出版事情

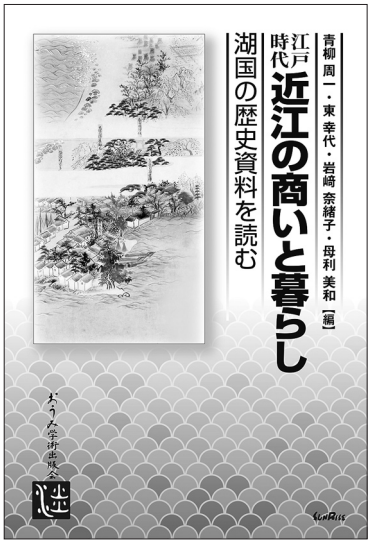
滋賀県内にはこれまで、大学独自の出版会はなかったが、それぞれの大学から、学外の人々を読者に想定した市販書籍の出版がまったくなかったわけではない。そうした事例にも、小社は関わらせてもらってきた。

昨年創立20年を迎えた滋賀県立大学は、開学時の基本構想で地域貢献や生涯学習の場の提供をうたっており、学外に向けた研究成果の出版にも当初から意欲的であった。環境科学研究におけるフィールドワークの重要性を教員と学生が認識し、得られた成果を調査地の住民へも還元することを目的に、「滋賀県立大学環境ブックレット」が2009年に創刊された。小社が発行元となり、これまで8冊が刊行されている。

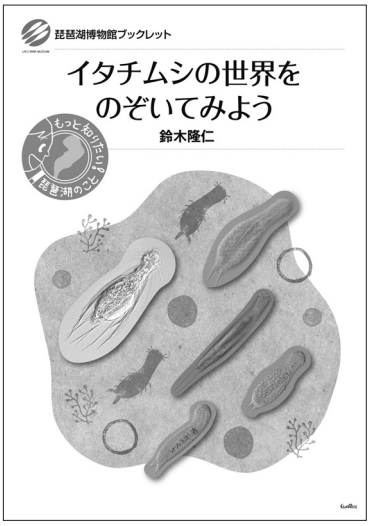
芸術系大学である成安造形大学（大津市、1993年創立）の場合、在学生・卒業生が地域の官公庁や民間企業と連携して作品づくりを行なっている印象が強い。附属の近江学研究所が年1回発行している『近江学』も、大学の研



成安造形大学附属近江学研究所発行
『近江学８号』



おうみ学術出版会の刊行第１弾『江戸時代　近江の商いと暮らし』



琵琶湖博物館ブックレット③『イタチムシの世界をのぞいてみよう』

究紀要としては学外を意識した異色の存在である。毎年特集テーマ（「石」「木」「火」など）が決められ、学外の研究者や写真家も文章や作品を寄稿、ＡＢ判・オールカラー、レイアウトも洗練された雑誌スタイルで、小社は校正を請け負い、市販分の発売元にもなっている。県外からの観光客が最新号を書店や観光施設で購入し、バックナンバーを電話注文してくることもある。

これに対し、戦後すぐに新制国立大学として誕生し、長い伝統をもつ滋賀大学のほうが、学外への情報発信・研究成果の地域還元という点では遅れをとっていたといえる。

原因としては、経済学という学問自体の細分化が進み、一般社会人との接点を見いだしにくくなっている、彦根高等商業学校が前身の経済学部（彦根市）と、滋賀師範学校が前身の教育学部（大津市）のキャンパスが分離されており、他学部との交流がほぼない（実質的には単科大学である）ため、時代に逆行した閉鎖性を生んでいるということなどが考えられるが、これ以上は踏み込まない。

私などが指摘するまでもなく、学内にも現状に対する危機感があり、打開に向けた議論がくり返されたのだろう。その具体化が出版会の設立であり、さらに大規模なものとして、先日正式に文部科学省によって認可された日本で最初のデータサイエンス学部開設（2017年４月）がある。正念場を迎えた地方国立大学が新たな挑戦に踏み出したのである。

歴史資料の宝庫「滋賀大学経済学部附属史料館」

そして、今年３月、出版会初の書籍として、『江戸時代　近江の商いと暮らし―湖国の歴史資料を読む―』が完成した。本書には、滋賀大学経済学部の宇佐美英機教授（元附属史料館館長）と、その指導を受けた研究者の多彩な論考が収録されている。

経営史を専門とし、近江商人研究に多大な業績のある宇佐美教授は、近年、京都の青物市場の分析を通じて天才絵師・伊藤若冲の人物像を一変させたことでも知られる。

1935年、旧高等商業学校時代に近江商人研究室として設置された経済学部附属史料館が、現在収蔵している寄託資料（おもに古文書）は、17万点におよぶ。「菅浦文書」「今堀日吉神社文書」「大島・奥津嶋神社文書」（いずれも国の重要文化財）は、経済分野にとどまらず日本の中世史研究全般を大きく発展させた最重要史料と言って差し支えないだろう。それ以外にも、多くの近江商人関連資料や、第百三十三国立銀行（現滋賀銀行）帳簿類など、中世から近現代にいたる史料の宝庫である。史料館の存在が、赴任の動機となったという研究者もおられるほどだ。

今後、滋賀大学ではリアルタイムのビッグデータの分析と並行して、これら過去の史料群の研究にもいっそう注力していただきたいものである。

若い研究者に対しても、出版社は積極的に支援を

おうみ学術出版会は、滋賀大学と滋賀県立大学が手を携え、専門分野に閉じこもりがちな従来の学術出版とは異なる新たな領域を拓いていくことを目指している。私はこの場がとりわけ、若い研究者の才能が積極的に発揮できる場であってほしいと思っている。研究の成果は書籍だけではないとの意見もあるだろうが、やはり研究者であれば、成果をまとめ上げる力を養ってほしい。そして、出版社はそれを積極的に支援するべきである。

大学と並び、地方の「知の拠点」として機能してきた滋賀県立琵琶湖博物館は今年、開館20周年を迎えた。同館も、県内研究者の成果を県民に還元するため、書店でも購入できる「琵琶湖博物館ブックレット」を企画、小社から発行が始まっている。２冊目の『湖と川も寄生虫』と３冊目の『イタチムシの世界をのぞいてみよう』は、ともに顕微鏡なしでは観察できない微小な淡水生物を紹介しており、まだまだ新参の研究者にも新種発見のチャンスが残されているという。地方から発信できるものもまだまだあると考えるのは、楽観的過ぎるだろうか。

（いわね　じゅんこ／サンライズ出版代表）

＊注：調印式配布資料は、http://neil.chips.jp/chihosho/acj/acj201610-websp.pdf で参照できます。

新刊ダイジェスト

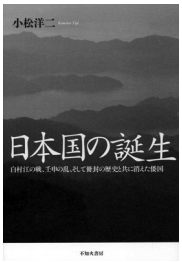
※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『満州国の最期を背負った男・星子敏雄』●荒牧邦三著

日露戦争のさ中、熊本県の豪農の家に生まれた星子敏雄は、旧制五高で生涯を決定づける国家主義思想に出会い、大陸雄飛の夢を抱く。東京帝大を卒業すると迷わず旅順の関東庁警務局に就職、石原莞爾らと満州国建設に奔走し、満州警察のトップに上り詰める。そこで結婚した妻は大杉栄殺害事件の首謀者甘粕正彦の妹であった。だが敗戦で一転、ソ連軍に逮捕されスパイ罪の宣告、日々死との向かい合わせであった11年に及ぶシベリアでの過酷な獄中生活。昭和31年51歳で帰国、65歳の時、推されて熊本市長に当選、4期16年を務めた。この数奇で壮絶な生涯を、生前の星子への取材、五高の運動家たちの記録と聞き書き、近年入手しロシア連邦政府の抑留者関係資料、星子が家族に送った俘虜郵便などにより生々しく辿る。星子は生涯、満州建国は侵略ではなかったと主張したという。戦後70年、まさに、「この信念と歴史的定説の差」を深く掘り下げて考えるべき時であろう。

◆2160円・四六判・219頁・**弦書房**・福岡・2016/8刊・ISBN9784863291379

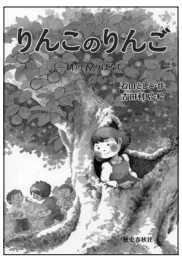
『日本国の誕生　－白村江の戦、壬申の乱、そして冊封の歴史と共に消えた倭国』●小松洋二著



日本における律令国家の形成期である7世紀後半に起こった2つの大きな出来事－白村江の戦いと壬申の乱。著者は限りある史料の読み直しと独自の視点からいくつかの新説を呈する。例えば、白村江の戦いでは船の数からいって優勢であるはずの倭国が大敗した理由を実戦の検証から迫る。倭国は満潮を利用して上陸し陸上戦に持ち込むつもりだった。海上戦を想定していない倭が輸送船なのに対し、唐船は戦闘準備をした駆逐艦で迎え撃ったことが勝負の分かれ目であったという。白村江の場所も錦江下流域ではなく牙山湾だとするのも新見解だ。壬申の乱に関しても興味深い推論が展開していく。乱のキーパーソンは天武ではなく実は高市皇子だという。異端的な存在だった天武が高貴な血を受け継ぐ高市皇子を養子という形で利用した。他にも唐の冊封を受けていた天智の称制期間には定恵という当時実在の倭国王が存在した。など、刺激に満ちた古代史像が味わえる一書である。

◆1944円・四六判・182頁・**不知火書房**・福岡・2016/8刊・ISBN9784883451104

『りんこのりんご　－緋の衣のはなし』●作・石田としこ／絵・吉田利昭著



「りんご、りんご！」「まっかなほっぺのりんごっぺ！」クラスの男子たちから赤い頬をからかわれる十才の凛子は、おじいちゃんが大事にしているりんごの木に隠れる。〈緋の衣〉というりんごが実るその木は樹齢百年を数え、農園にはこの一本だけ。どうしてこんな名前がついたのか、舞台は戊辰戦争後の会津へと移る。孝明天皇から賜った緋色の陣羽織をまとった会津藩主松平容保は緋毛氈の上に立って降伏し、武家の娘としてその光景を見ていた凛子の曾祖母りんの脳裏に二つの緋色が焼きついてしまう。

りんは家族を助けるために蝦夷に渡り余市に入植。十六才になり、小学校の先生になった頃、北海道開拓使からりんごの苗木が配られる。開墾がはかどらず、最初は期待されなかったりんごが実を結ぶのはもっと先になってしまうが、日本で一番古いりんごと言われる〈緋の衣〉の由来が描かれている。会津と余市をつなぎ、歴史を語り、出会いと別れの詰まったりんの成長物語でもある。

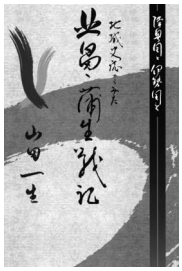
◆1080円・A5判・109頁・**歴史春秋社**・福島・2016/7刊・ISBN9784897578842

『汽車・電車・市電　昭和の名古屋　鉄道風景』●服部重敬著

その丸っこいスタイルから「イモムシ」の異名をとった名鉄3400系、そのカラーリングから「ナマズ」と呼ばれた名鉄850系。着々と整備が進められる市営地下鉄とその一方で廃止されていく路面電車。国鉄名古屋駅を出入りする列車も数多くの特急・急行そして寝台列車とバリエーションに富んでいます。1970?80年代にかけて著者が撮りためた写真は、鉄道華やかなりし頃の姿をとどめています。そして本書は鉄道がメインの写真集ではありますが、その鉄道を包み込む風景にも時代が色濃くにじんでいて興味深い。超高層ビルは名古屋駅周辺にもほとんどなく、今や住宅開発の進む名鉄豊田線沿線にも住宅はありません。そして夏休みに席取りに並ぶ人の長蛇の列や、正月の初詣客でごった返す市電の停留所からは、当時の人と鉄道の身近さも伝わってきます。鉄道を通じて40年前の名古屋とその周辺の歴史、さらには時代の雰囲気さえも感じることができる貴重な資料ともなっています。

◆2808円・B5判・207頁・**トンボ出版**・大阪・2016/7刊・ISBN9784887161337

『地域史誌からみた北畠・蒲生戦記　－陸奥国と伊勢国と』●山田一生著



南北朝時代の公卿・北畠親房は、「戦う公家」として後醍醐天皇を支え続けたことで有名である。子の顕家が天皇の命により義良親王を奉じて陸奥へと赴く。目的は旧幕府方が蟠踞する奥羽の鎮圧だが、かれ以後の北畠氏の動向となると同時代の史料が乏しく謎が多い。例えば、津軽の浪岡を拠点とする浪岡北畠氏（「浪岡御所」）が15・16世紀の史料（『津軽郡中名字』『言継卿記』など）に登場するが、いつ、だれが、どのような経路を辿って入部してきたのか明確ではない。十三湊と外ヶ浜という２つの交通の要所に挟まれた浪岡の地に北畠一族はいくつかの城館を築いた。著者は、すでに顕家の時代から浪岡と関わりがあったと推論する。一方、顕家の弟・顕能の系統が伊勢国司として戦国期まで南伊勢地方を領した。奥羽と伊勢の地に２つの北畠氏が中世という時代を生き抜いた。本書は、やや南朝贔屓な歴史書ではあるが、東北および三重の中世史に興味を持たれる方は必読である。

◆4104円・四六判・573頁・**夕刊三重新聞社**・三重・2011/7刊・ISBN9784896580013

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2016年8月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**あおもり草子**　Ｎｏ．２３９　佐藤　史隆編　Ａ４　48頁　６００円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-20924-5　16/08

◆**ＳＰＲＩＤＥ**　ｖｏｌ．０３　渡辺　直明編　Ａ４　109頁　７３０円　下野新聞社［栃木］　978-4-88286-625-1　16/09

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４４０　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-72-5　16/08

◆**季刊　ことばの翼　詩歌句**　第４７号　小島　哲夫編　Ａ５　236頁　１９４４円　北溟社［埼玉］　978-4-89448-728-4　16/08

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．７８　やどかり出版編　Ｂ５　60頁　１２９６円　やどかり出版［埼玉］　978-4-503-20932-0　16/08

◆**子どもと読書**　４１９号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ５　40頁　５５０円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］　978-4-907376-19-2　16/08

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．１８３　石橋　勝利編　Ａ４　128頁　１８００円　アクシス［東京］　978-4-503-20931-3　16/10

◆**Ｂｅ！**　１２４号　Ｎｏ．１４９　今成　知美編　Ａ５　107頁　８６４円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］　978-4-901030-26-7　16/09

◆**地方史研究**　第３８２号　地方史研究協議会編　Ａ５　147頁　１２３４円　岩田書院［東京］　978-4-87294-982-7　16/08

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５４３　片岡　輝編　Ａ５　165頁　１５７１円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-20919-1　16/08

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５４４　片岡　輝編　Ａ５　47頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-20936-8　16/09

◆**子どもと本**　第１４６号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　６３７円　子ども文庫の会［東京］　978-4-906075-50-8　16/07

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．７２９　三徳庵編　Ａ５　84頁　５４０円　三徳庵［東京］　978-4-503-20916-0　16/08

◆**調査情報**　Ｎｏ．５３２　岩城　浩幸編　255mm×160mm判　106頁　７８９円　ＴＢＳテレビ［東京］　978-4-906908-93-6　16/09

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．５１６　佐藤　友美編　204mm×108mm判　158頁　５００円　東京かわら版［東京］　978-4-503-20928-3　16/08

◆**俳句四季**　Ｎｏ．４６９　西井　洋子編　松尾　正光編　Ｂ５　160頁　９３１円　東京四季出版［東京］　978-4-503-20926-9　16/08

◆**みんなの図書館**　Ｎｏ．４７３　図書館問題研究会編　Ａ５　72頁　８１０円　図書館問題研究会［東京］　978-4-503-20923-8　16/08

◆**おりがみ**　Ｎｏ．４９４　日本折紙協会編　Ａ４　51頁　７８６円　日本折紙協会［東京］　978-4-86540-039-7　16/09

◆**海運**　Ｎｏ．１０６７　日本海運集会所編　Ａ４　72頁　１２９６円　日本海運集会所［東京］　978-4-503-20918-4　16/08

◆**Ｆｕｊｉ　Ａｉｒｗａｙｓ　Ｇｕｉｄｅ**　Ｎｏ．６２８　フジ・インコーポレーテッド編　Ｂ５　97頁　３８０円　フジ・インコーポレーテッド［東京］　978-4-503-20927-6　16/08

◆**ＡＲＯＭＡ　ＲＥＳＥＡＲＣＨ**　Ｎｏ．６７　高橋　由美編　Ａ４　100頁　２１６０円　フレグランスジャーナル社［東京］　978-4-503-20933-7　16/08

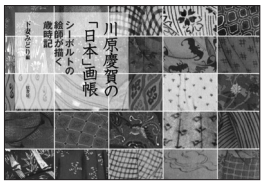
◆**ｃｒｅａｂｅａｕｘ**　Ｖｏｌ．８７　内田　今朝雄編　鈴木　淳子編　Ａ４　122頁　１８５１円　フレ

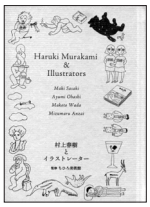
売行良好書

期間：2016年8月15日～9月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『ボクシングと大東亜』2376円・忘羊社　(2)『ブックトークのきほん』648円・東京子ども図書館　(3)『川原慶賀の「日本」画帳』2916円・弦書房　(4)『三池炭鉱宮原社宅の少年』1944円・石風社　(5)『村上春樹とイラストレーター』1944円・ナナロク社　(6)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスクヒューマンケア　(7)『満州国の最期を背負った男・星子敏雄』2160円・弦書房　(8)『肉にガブリつく！』1404円・椎名誠旅する文学館　(9)『まぁ映画な、岡山じゃ県２』1728円•蛸文庫　(10)『三江線写真集』2160円・今井出版　(11)『文庫本宝船』2700円・本の雑誌社　(12)『ぼく　生きたかったよ・・・』1080円・かりん舎





［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『鯉のぼりの御利益』1200円・東京かわら版　(2)『東京かわら版　９月号』500円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　４００号』860円・本の雑誌社　(4)『吉野朔実は本が大好き』3240円・本の雑誌社　(5)『水玉螢之丞作品集　ワンフェスのワンダちゃん』2500円・本の雑誌社　(6)『文庫本宝船』2700円・本の雑誌社　(7)『パズル通信ニコリ　１５６』907円•ニコリ　(8)『村上春樹とイラストレーター』1944円•ナナロク社　(9)『朝さっと作るお弁当１２５』977円•ベターホーム出版局　(10)『本屋がなくなったら、困るじゃないか』1944円・西日本新聞社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『ボクシングと大東亜』2376円・忘羊社　(2)『三池炭鉱　宮原住宅の少年』1944円・石風社　(3)『川原慶賀の「日本」画帳』2916円・弦書房　(4)『叫びの都市』2592円・洛北出版　(5)『きみを嫌いな奴はクズだよ』2052円・書肆侃侃房　(6)『モンゴル人の民族自決と「対日協力」』3218円・中国書店　(7)『つまみ細工』2160円・かりん舎　(8)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(9)『法の原理』3888円・行路社　(10)『出口王仁三郎聖師　善言美詞　祝詞解説』1512円・みいづ舎　(11)『奥武蔵登山詳細図　武甲山・武川岳・伊豆ヶ岳・丸山　全１３０コース』950円・吉備人出版　(12)『東京の川を歩く』3024円・さきたま出版会

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼昨年の10月22日から10月28日、鳥取県立図書館で開かれた**「ブックインとっとり2015」**に出品展示された全国の地方出版物の中から、第29回地方出版文化功労賞が決定いたしました。審査結果は以下の通りです。

◎第29回地方出版文化功労賞

【地域ではたらく「風の人」という新しい選択】ハーベスト出版（島根県）刊／1,400円＋税／ISBN9784864561563／著者・田中輝美＊法政大学社会学部メディア社会学科藤代裕之研究室／＜選考理由＞①もともとは普通の人（少なくとも地域活性化に強い関心を持たなかった人）がそれぞれの活動で大きな足跡を残す過程を、取り上げられた人の本音とともに、生きた言葉で語られることが驚きと納得感、さらには読後の充実感を与える。②地方には一片の興味もなかった者もいる学生たちが、地域ではたらくことの意義をそれぞれなりに考えてインタビューを行っており、また、その反作用も含め、各章末の取材記に（模範解答ではない）光るものがみられる。③学生、指導教官、ローカルジャーナリストの三者の立ち位置や考え方の違いがうまく作用し、類本を一歩超えた「多くの人に読んでもらいたい」本となっている。

郵便販売のご注文方法

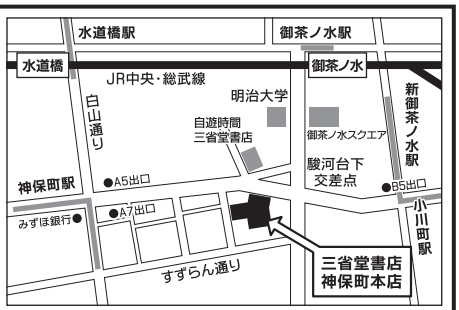
◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

三省堂書店
BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。



地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。